

保護者のみなさま

豊能町立東能勢中学校  
校長 小田 恵美子

令和3（2021）年度 全国学力・学習状況調査の結果について

深秋の候、保護者のみなさまにはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、5月27日（木）に実施された全国学力・学習状況調査の結果が国より届きました。以下に校内の分析内容を報告いたします。

尚、この調査結果は、学力や学習状況の一部であり、本校は調査標本数が少ないので、数名の回答で大きく変わる可能性があることに留意する必要があります。しかし、数字等から見えてくることを共有し傾向をつかむことによって、成果と課題を今後の教育活動にいかしていきたいと思っています。

1. 調査概要

○令和3年5月27日（木）に全国すべての学校を対象に一斉に実施された。

\*5月27日に実施した生徒数は国・公・私立の合計932,995人

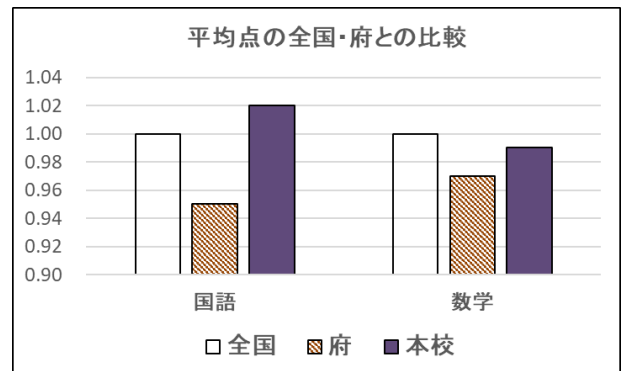
○中学校3年生を対象に、国語（14問）・数学（16問）の二教科で各50分間の調査であった。

○生徒質問紙は基本的な生活習慣、学習習慣など12項目69問あり、学校の指導方法や教育環境を問う学校質問紙は15項目85問で、どちらも新型コロナウイルス感染症の影響を問う質問が新たに追加された。

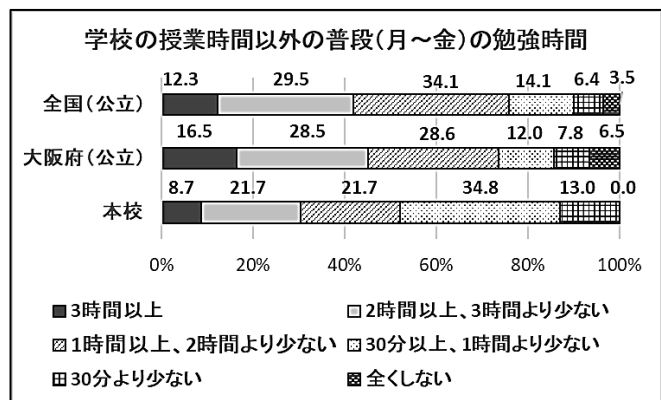
2. 調査結果

【学力調査結果の概要】

右のグラフは調査教科の平均正答率を全国を1として大阪府と本校の割合を表したものである。国語は本校は大阪府や全国平均より上回った。数学については、本校は大阪府よりは上回ったが、全国平均とほぼ同じぐらいであった。各教科の詳細は以下にまとめるが、生徒質問紙の「学習に対する興味・関心や授業の理解度等」の項目では「各教科の勉強は好きか」の質問の肯定的回答（「好き」「どちらかと言えば好き」）は国語 65.2%（府 60.0 国 60.8）、数学 78.3%（府 57.7 国 59.1）といずれも高い。「授業内容はよくわかるか」の問いの肯定的回答も国語 86.9%（府 80.3 国 80.1）、数学 82.6%（府 74.2 国 74.6）と府や国を上回っている。学習に対して興味関心を持ち、理解しようと授業に臨む生徒たちの姿勢がうかがえる。また、多くの生徒が「最後まで回答を書こうと努力した（国語）」や「あきらめずにいろいろな方法を考える（数学）」と回答している。



しかし、「学校の授業以外に普段1日当たりどれくらいの時間勉強をするか」の問いでは、「1時間未満」と回答している生徒が前回（平成31年度）の50%からはやや減ったものの47.8%（府 26.3 国 24.0）で、府や全国に比べても家庭学習の時間が短い。それは平日のみならず、土日など休日でも3時間以上勉強していると回答している生徒は21.7%（府 23.9 国 26.8）で、学校では真面目に学習に向かうが、学校以外では自主的に勉強するという学習への積極性がまだまだ低いと思われる。



## 【各教科の分析】

### 国語

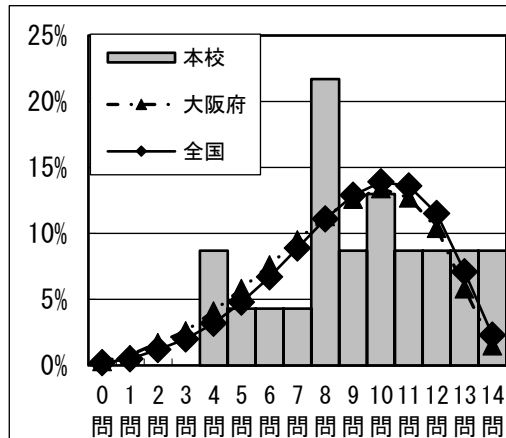
「書くこと」への抵抗感はあまりないが、「話し合いの方向性をとらえること」に課題がみられる

#### (1) 全体概要

今年度は、全国平均正答率や大阪府平均正答率をやや上回っている状況である。

領域別に見ると、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では全国・大阪府より高く、「書くこと」に対する抵抗感は低いようである。特に無答率は全国 24.1% のものでも本校では 13.0%にとどまり、ある程度書く意欲と文章力が認められる、といえる。

「言語事項」においては、敬語を正しく使うことができおり（全国平均の二倍以上の正答率）、個人の生活経験をみる事ができた。一方「話すこと・聞くこと」は全国平均を下回っており、「話し合いの話題や方向性をとらえる」ことに課題がみられた。日頃の話し合い体験等「話す」経験が今後の力を伸ばしていくことになるとと思われる。



#### (2) 正答率による分析

##### ①正答率が全国と比較して10%以上 上回っている問題

- 4 (三) 「行く」を適切な敬語に直し、敬語の種類を選択する。・・・正答率 78.3  
(記述式問題 全国より+38.0%)

##### ②正答率が全国と比較して10%以上 下回っている問題

- 4-②文脈に即して漢字を正しく読む。「詳細」・・・正答率 73.9%  
(記述式問題 全国より-14.9%)
- 1 (三) 話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える。・・・正答率 34.8%  
(記述式問題 全国より-22.3%)

### 数学

数式や関数に関する知識や内容を理解する力はあるが、資料の活用力に課題がみられる

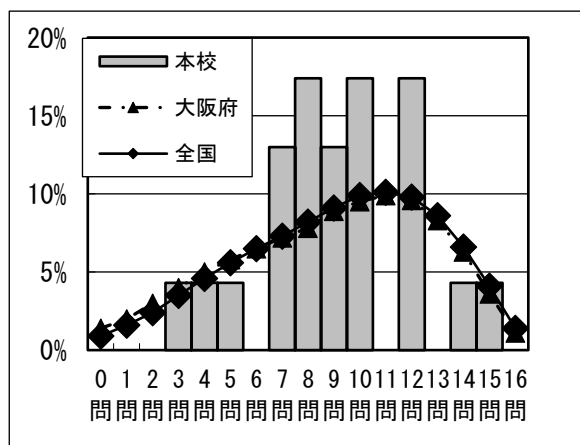
#### (1) 全体概要

今年度は、全国平均正答率や大阪府平均正答率と比較しても大きく変わらない状況である。

領域別にみると、「数と式」「関数」の分野に関しては、全国・大阪府より正答率は約6%高く、「図形」「資料の活用」分野に関しては、全国・大阪府より正答率は約6%低い。

評価の観点別では、「数量や図形などについての知識・理解」については、全国・大阪府より正答率は少し高く、「数学的な技能」については全国・大阪府より正答率は少し低い結果となった。「数学的な見方や考え方」については、全国・大阪府の正答率とほぼ同じである。

また、生徒質問紙の数学に関する質問項目では、どの項目でも肯定的な回答の割合は全国と比較しても上回っているか、ほぼ同じである。実生活と結びつけて考えることを大切にしながら、数学の学習に意欲的に取り組んでいる。引き続き、授業等で大切にしていきたい観点である。



#### (2) 正答率による分析

##### ①正答率が全国と比較して10%以上 上回っている問題

1.  $(5x+6y) - (3x-2y)$  を計算する・・・正答率 95.7% (短答式問題 全国より+18.6%)

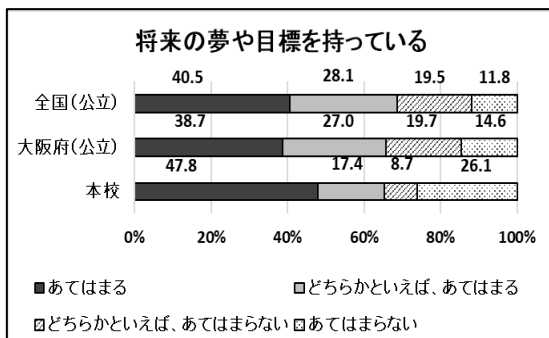
4. 経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する  
 ……正答率 60.9% (短答式問題 全国より+12.9%)
- 6(2). 四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する  
 ……正答率 73.9% (記述式問題 全国より+12.1%)
- ②正答率が全国と比較して10%以上 下回っている問題
3. 中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ  
 ……正答率 56.5% (選択式問題 全国より-11.6%)
5. 反復横とびの記録の中央値を求める ……正答率 52.2% (短答式問題 全国より-32.3%)
- 9(3).  $\angle ARG$  や  $\angle ASG$  の大きさについていつでもいえることを書く  
 ……正答率 17.4% (短答式問題 全国より-11.4%)

## 【生徒質問紙の分析】

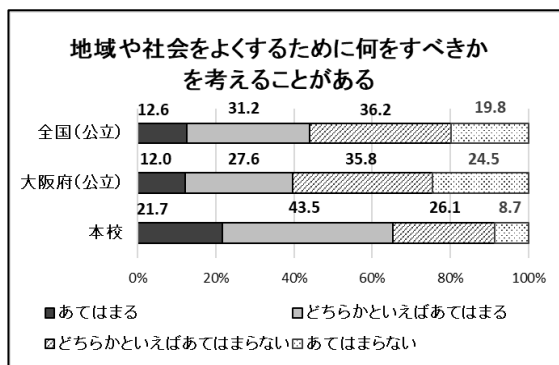
### 良かった点

#### ① 基本的な生活習慣や自分自身について

将来や社会についても考え、自分をいかしたい、役に立ちたいと思っている生徒が多い



基本的な生活習慣として大切な朝食については、「毎日食べる」が91.3%で前回73.5%より増え、府77.3%、国81.8%よりも大きく上回った。また、「挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等」の項目については左のグラフのように、「将来の夢や目標を持っている」の質問に「あてはまる」と回答した生徒は47.8%で比較的高く、半数以上の生徒が何かやりたいことを持っていると思受けられる。(府38.7、全国40.5)



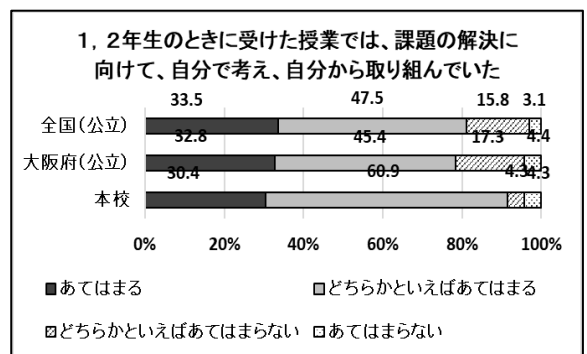
また、「人の役に立つ人間になりたい」という質問に対して「あてはまる」の回答は78.3%で多くの生徒が自己有用感を求め、他人を思いやる気持ちを大切にしている。(府73.6 国74.3)それは、「地域や社会に関わる状況」に関する項目の質問「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答(「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」)が65.2%となっていることでも読み取れる。(府39.6 国43.8)地域の行事への参加や読書については例年同様、今回も府や全国を上回っている。「地域行事に参加する」(本校26.1 府11.2 国16.3)、「学校以外での読書を全くしない」(本校21.7 府46.3 国37.4)であった。

#### ② 学校の授業改善や生徒の学習活動に取り組む姿勢等について

授業改善の研究の成果が表れており、生徒たちも前向きに学校の学習活動に臨んでいる

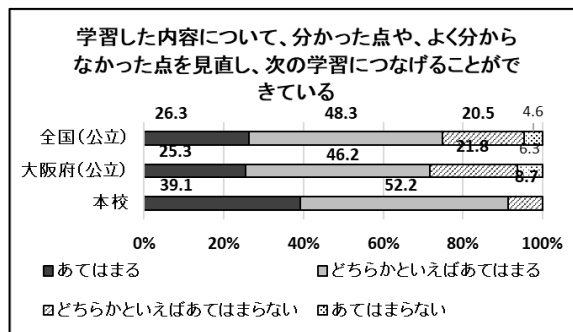
本校は大阪府の学力向上事業や指導方法の工夫改善の加配を活用し、学校の授業改善や生徒の学力向上に取り組んできた。「どの子もわかるユニバーサルデザインの授業づくり」に始まり、「主体的・対話的で深い学びの視点」の研究や「生徒が主役になる授業づくり」をテーマに大阪教育大学との共同研究などに取り組んできた。各学期の相互参観週間や生徒会による学習アンケートの振り返りなどが軌道に乗り、本調査の生徒質問紙による授業改善や生徒の学習活動に取り組む姿勢についての項目では効果がみられる結果となった。

右のグラフからもわかるように、生徒たちが「課題解決



に向けて自分で考え、自分から取り組む」姿勢が府や全国に比べても高い。(肯定的回答 本校 91.3 府 78.2 国 81.0) また、「学習した内容について、分かった点やわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」という質問にも 91.3%が肯定的に答えていて、授業で教員が「振り返りの時間」を大切にしてきたことが実を結んでいるのではないかと考えられる。(府 71.5 国 74.6)

指導方法の工夫や授業改善の取組について、「授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、新しいものを創り出したりする活動を行っている」の質問で肯定的回答が本校は 78.3% (府 58.4 国 59.5) と約 8 割の生徒が意識しており、「学級で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答が 87.0% (府 73.1 国 77.8) とはるかに全国を上回っている。新学習指導要領でも示されている「主体的・対話的で深い学び」をめざして研究してきた成果が表れつつあると感じられる。

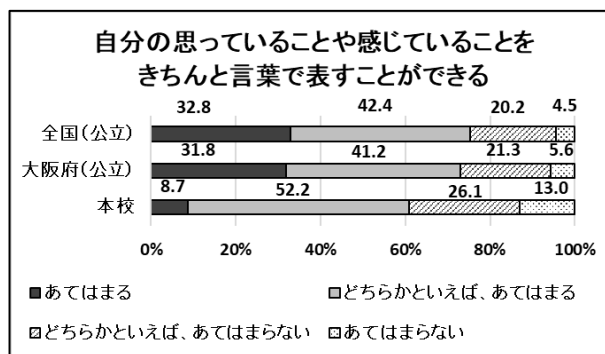


## 課題

挑戦する姿勢や自己肯定感、家庭での自律した時間の使い方に課題がある生徒が多い

### ① 自分自身について

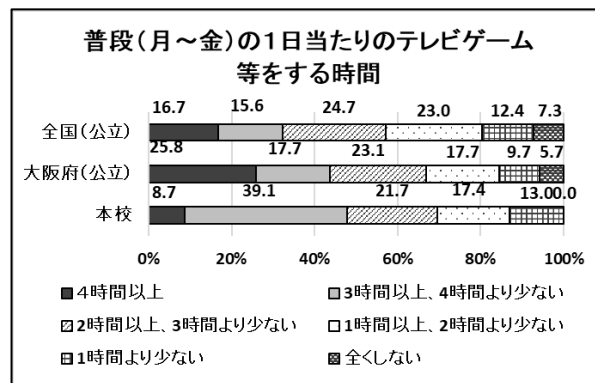
右の結果をみると、自分の思いを言葉で伝えられていると自信を持って答えられているのはわずか 8.7% (府 31.8 国 32.8) で、授業では自分の意見を発表する場面があるが、それをきちんと言葉で表すことにほとんどの生徒が自信を持っていないようである。挑戦心をうかがう「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」の肯定的回答も 47.8%と前回 (64.7) や府、全国に比べても低い。(府 64.6 国 65.9)



また、以前から町全体の課題にもなっている「自分にはよいところがある」という質問については、本校でも積極的に肯定する回答(「あてはまる」)が 21.7%と大阪府 (32.3) や全国 (34.5) を下回っている。自分への自信が持てず、難しいことへ挑戦していくことについては消極的な傾向がみられる。

### ② 生活習慣等について

平日のテレビゲーム等に費やす時間で「3 時間以上」と答えている生徒はなんと 47.8%で半数近い。府や全国と比較しても長時間ゲーム等をして過ごしている状況がみえる。(府 43.5 国 32.3) これは、前述した家庭学習時間が短いことと深く関係しているのではないかとと思われる。また、「携帯電話、スマートフォンやコンピュータを持っているが、使い方についての家での約束はない」の回答は 21.7%もある。



(府 20.0 国 18.9) ICT 端末の普及に伴い、使い方について家庭との連携が必須である。

### 3. 今後に向けて

- ◆ 今まで取り組んできた授業改善の研究成果を評価し、今後も「どの子も輝く場をもてる学校づくり」を大切にしたい生徒一人ひとりの深い学びのための取組を継続していく。
- ◆ 生徒たちの前向きな姿勢を評価し、小規模校だからできる利点をいかして色々なことに挑戦できる場面をつくり、生徒の自己肯定感をはぐくむ。また、言語活動の充実を意識した活動を通して、ことばの力の向上に取り組む。
- ◆ ゲームやパソコン、スマートフォンの使い方について、ご家庭にも協力を求め、規則正しい生活や家庭学習の促進のみならず、情報モラルの向上や規範意識の醸成をはかる。